

安保粉碎！ 日韓民衆連帯！ 二期工事阻止！

# 人民闘争のうねりを

# 日帝打倒・米帝追放へ



運輸省前で塩川に会い、とせまる反対同盟(16日)

# 革命の旗

共産主義者同盟  
(革命の旗)  
中央機関紙

第27号  
1980-10-20  
定価 150円  
(毎月5日、20日発行)

発行人 北沢晋  
発行所 赤流社  
電話 (03)407-3511  
東京都世田谷区千歳  
郵便局 私書箱4号  
振替 (東京)7-86947

年間定期購読料  
開封2500円(送料共)  
密封3000円( )

## 主張

全国の共産主義者・先進的労働者諸君！ わが同盟は単一党建設をともにやりぬくための熱意をこめて訴えていきたい。

だ未熟ではあれ、全同志が考え討議し獲得した綱領草案をしっかりと握りしめていくことである。だが、これはもつと多数の労働者の討議と闘いの試練の中でねり上げられ、深められなければならないものである。

## 単一党創建の共同事業を

### ＝革命的な根本的準備とは何か＝

この一年間は、批判を含めて確かな手ごたえをわれわれに与えてくれるものであった。そして幾多の労働者の励ましと期待をうけてきた。

毛沢東思想を支持し、急進民主主義・反スタ・トロツキズムを清算・止揚すること。日本革命の政治路線「日帝打倒・米帝追放」プロ独・社会主義革命の確立と国際人民闘争を止し結ぶこと、活動していくこと。更に、全国政治新聞の発行を軸に、当面「工場細胞」を基礎とした正規の攻囲をおし進め、中央集権非法法を建設していくことである。

この思想的組織的武装を促進するためにも、社共にかかわる単一の労働者階級の革命党が実行し実現していく労働者階級の革命党は、共産主義者の組織は依然として分散と停滞を強いられ続けている。

そのための熱意は誰にもまげず満ちみちている。これがわれわれの共通した財産である。もう一つの財産は、われわれがいま

これら諸点にわたる十分な討議と、相互の活動の経験をつきあわせ、カナメを鮮明にしてい

七月以降、社共は反対する戦線的左翼諸派は、新左翼も、毛派潮流も、構改諸派も、一部自民党民主派との連合を考えていた。エセ毛派を除いて、ほとん



### 三里塚 運輸省へ怒りが爆発!

#### 連日、百人をこす結集で闘いぬく

▼14日 十三日の芝山町、成田市役所への申し入れ(前記の内容)市への抗議行動につづき、二百人と駅前までのデモを貫徹。  
▼15日 箱崎公園に二五〇人が集まり決起集会。耕運機を先頭に、午後から百数十人で、機動隊がとら囲む運輸省へ。十七日午後一時に会見したいと申し入れたが、名が庁内へ入ったが、川上知事は出、日本政府のテコ入れ弾劾、不在。副知事に①三里塚空港認可の責任、②二期工事の中止、③パ返して運輸省へ。塩川でこい、イブライ工事中の中止、④シエツ二期やめろ、と十分間にわたって燃料暫定貨車輸送延長を認めて怒りの声をあげた。▼夜からは青年行動隊を軸に、数寄屋橋でテ

### 今号の主な内容

- ▽闘いの現場から、闘争報告……2面
- ▽学生運動論文、沖繩月報……3面
- ▽シリーズ、80年代の安保……4面
- 第1回 社会党の安保政策批判……4面
- ▽中国共産党は……5面
- ▽ソ連を反面教師としうるか(下)……6面
- ▽戦旗・共産同批判(中)その一……6面

### 闘争日程

- 10・25 原発一時停止・放射性廃棄物海洋投棄計画撤回・日本の核武装阻止・反原発国民大集会(P.M. 11時)
- 10・26 日比谷野音、集会実行委)
- 10・26 金大中氏らを殺すな・プリア宣言首都圏集会(P.M.2、代々木公園、全日閣緊急連署勝利全国)
- 10・26、28 全日本山闘争勝利全国総決起集会(仙台現地)
- 10・30 「特措法」強化延長要求総理府行動(国民運動実行委)
- 10・31 寺尾差別判決6ヶ年糾弾・狭山再審要求中央集会(P.M.2、明治公園、部落解放同盟中央本部、部落解放全国共闘、地方共闘)
- 11・2 赤堀差別裁判闘争全国闘争(A.M.10、明治大学駿河台校舎、赤堀中闘委)

# 10・15 ぶつつぶせ! 関西新空港

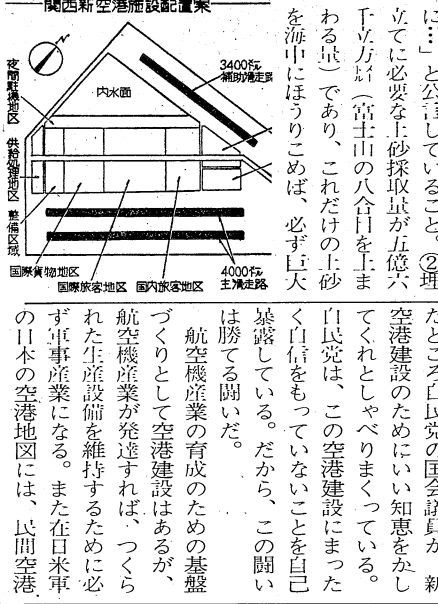
## 大阪集報 大会

十月十五日、ぶつつぶせ新空港大阪集報が八百名の労働者、学生、市民を結集して、中之島公会堂で開催された。この集報は、日帝の空港建設策動の激化に抗して、泉州から大阪へ、人民の闘う布陣を広げていくことを目的に、大阪では始めて開催された。

集会実行委員の山田国広代表は、関西新空港に反対する理由を四つにまとめて発言した。それは、①奥野法利、日向方から関西の政界、財界が、日本の軍備増強の旗振り役を担っており、ことに日向は空港建設を「日本の防衛のため」と公言していること。②埋立てに必要な土砂採取量が五億六千立方メートル(富士山の八合目を上回る量)であり、これだけの土砂を海中にほうりこめば、必ず巨大な津波を招くこと。③埋立てに必要となる土砂採取が、新築の空港建設のためにいい知恵をかりてくるとしやべりまくっていること。④空港建設は、労働者や農民の生活を破壊し、環境汚染を招き、公害問題を引き起こすこと。

また、出稼ぎ問題があること。次に、講演に立った山田国広氏は、大阪の旧制高校の同窓会に出たところの自民党の国会議員が、新築の空港建設のためにいい知恵をかりてくるとしやべりまくっていること。④空港建設は、労働者や農民の生活を破壊し、環境汚染を招き、公害問題を引き起こすこと。

また、出稼ぎ問題があること。次に、講演に立った山田国広氏は、大阪の旧制高校の同窓会に出たところの自民党の国会議員が、新築の空港建設のためにいい知恵をかりてくるとしやべりまくっていること。④空港建設は、労働者や農民の生活を破壊し、環境汚染を招き、公害問題を引き起こすこと。



### 10・5 ミッドウエー母港撤回・基地撤去

#### 横須賀闘争に三千五百人

海上自衛隊による水雷調整所・大型艦専用固定艦橋の新設など、横須賀基地の飛躍的強化は、有事即応、実戦配備にむけた第2歩であり、米軍による新型空母母港化策動こそはその最終的うねりである。海上自衛隊のリムパック80への参加、そして十一月韓

をきびしくしましめてきた。それにかわって、急進民主主義の組織路線を総括、批判し、綱領の転換を組織の転換としてなすべきこと、非公然活動を拡大し、蓄積していくべきだと考えてきた。

だから今、同盟と政治警察との攻防関係の変化を見ず、敵の奇襲に備えて同盟の政治武装を固め、更に強化して活動を防衛し、組織を防衛し、人民を防衛しなくてはならないのである。

帝国主義戦争の本格的接近とブルジョア階級の反抗戦の拡大の中で、来たるべき階級激突に備えて着実に前進し、敵の攻撃を一つ一つ粉砕せねばならない。この試練を闘いぬき、革命的警戒心をかり、長征が真の勝利によって完結できるよう、同盟の防壁を更に高く築きあげよ!

ブルジョアの合法性を決して不動のものと考えてはならない。二回大会方針の真の物質化と結びつけ全戦線、革命的主体的条件の整備を全力で闘い、正規の攻囲軍建設のため、敵の奇襲的攻撃を粉砕せよ!

## 政治警察の同盟破壊策動を許さず革命的防壁を強化せよ!

### 共産同(革命の旗)弾対部

と人民の利益を政治反動・政治警察の攻撃から防衛する闘いの意義は、決定的なものである。ブルジョアの合法性の結果として、情勢の変化と同盟の政治的進出がもたらす政治警察との攻防関係に、無自覚であつたりしては決してならない。帝国主義戦争の本格的接近と同盟の政治的進出は、今年に入つて急速に政治警察との闘争を激化させている。

三月、小西同志虐殺と神奈川地方委への集中的な革命介入、五月、二同志の投獄、六月、反戦反安保闘争での同志不逮捕と事務所への不当ガサ入れ、八月、高原同志の投獄、九月、情宣中の同志二名の不逮捕とコン泥的な事務

をいって「彼は誰からも相手にされない奴だ。不幸な奴だ」としてこく指導不信をふきこみ、挙句の果てには「このままでは殺人者になる。これを機会に反省しろ」と出所をたまたまされるから、今のうちに考えろ」と転向を強要するなど、同盟の直接的な解体をねらつて

をいって「彼は誰からも相手にされない奴だ。不幸な奴だ」としてこく指導不信をふきこみ、挙句の果てには「このままでは殺人者になる。これを機会に反省しろ」と出所をたまたまされるから、今のうちに考えろ」と転向を強要するなど、同盟の直接的な解体をねらつて



9/17 戦闘的争議団・労組 百四一団体結集

### 10・16 東部青年部集会

#### 一三百余名の青年労働者の熱気

この日、東部においては地区青年部代表者会議によって春闘時における地域集結が図られ、六月に「反戦反安保講演集会」が取り組まれた。

集会は最初に主催者代表からあいさつを受け、この間の全金浜田・ペトリ両闘争を勝利させ、また東部地域共闘の地歩を更に発展させ、官民労働者の階級的団結によって自民党政府の反動攻撃を阻止し、とりわけ韓国

民衆の闘いに連帯した地域共闘を青年の力で作りあげようとの提起がなされた。

次に連帯のあいさつに立った江戸川在任の在日韓国人「政治犯」姜宇奎さんの御家族の方から、姜さん五人の「政治犯」が全斗煥ファシイ政権の下で再審請求が却下され、その生命があやぶまれる現在、「なんと」でも「死刑」執行を阻止する総行動を」との訴えが寄せられ、会場から熱い連帯の拍手が送られた。続いて、官公庁・民間職場からの闘争報告、全道船佐伯分会・大久保製薬検査課労組・慈恵医大青戸病院の山本さん等、争議団からの発言を受けた。

とりわけ、職場において「障害者」自身の決起と苦闘を通じて労働運動の中に反差別共同闘争をしっかりと刻みこんできた大久保製薬の仲間からは、韓国にも進出している大久保製薬が韓国女性労働者に深夜労働を強要している事実が暴露され、光州蜂起に連帯する闘いを職場から作りあげるとの熱烈な決意が表明された。

集会は、最後に集会宣言を採択し、「安保粉砕・闘争勝利」のコールもひととき高く、亀戸駅までのデモンストレーションを貫徹した。

鈴木内閣の登場以降、露骨な強盗戦争準備・政治反動の強化

の中で、そしてこれと利害を一つにする労働者階級の右翼的「労戦統一」の進行の中で、地域を起点に、青年労働者が「反戦・反安保、日韓民衆連帯」を高々と掲げ、闘いを前進させんとすることは極めて重要である。未だこうした闘いが、官公庁労働者を中心とした取り組みにわたっているとはいえず、かかる部分を牽引力として、民間労組、更に東部地区に膨大な存在する未組織の仲間の中に、こうした闘いをおし拡げていかねばならない。そしてこの青年労働者の息吹きをプロレタリア階級独裁・社会主義革命をめざす労働者階級の巨大な戦列を作りだす闘いとしっかりと結びつけていこう!

(東部通信員・M)

### 9/17 戦闘的争議団・労組 百四一団体結集

#### 争議行為の非合法化を許さず 労働運動の原則を守ろう

東京を中心とする戦闘的争議団、労組一四一団体、六五〇人の結集(実行委参加二〇〇団体)で9・12反弾圧集会、デモが熱気にみちて開かれた。労働争議者階級の先遣分子が、政治的組織的訓練を自らにほどこしている。労働運動の「非本来的な」条件のあれこれの事情により、都下百をこえる労組、争議団が、こうした状態を形成している。

とりわけ本年の集結では、弾圧件数そのものは減少しているものの、柴田法律事務所闘争、機械工業新聞闘争への「名誉毀損罪」「強要未遂罪」適用攻撃が示すように、「一層公然と」「民事不介入の原則」が崩され、争議行為そのものの非合法化が進められているという事実がそれである。ことばをかえれば、今日

の労働者を結集している。この日の闘いは、戦争準備に向う日帝足下の労働運動の現状を一つの面から照し出した。すなわち「一人の首切りも許さない」労働運動の原則を掲げ、みずからの結束のみを武器として資本と闘う労働運動が、司法反動の壁につきあたり、また公安二課を先頭とする刑事弾圧に直面しているという事実がそれである。ことばをかえれば、今日

### 10/17 ひきつづき 全都争議団集会

#### 争議団共闘の四原則を確認

十月十七日午後六時から労働会館において、争議団共闘の飛躍をめざす「争議団共闘勝利総決起集会」が百二十団体三百名の労働者の結集によって開催された。

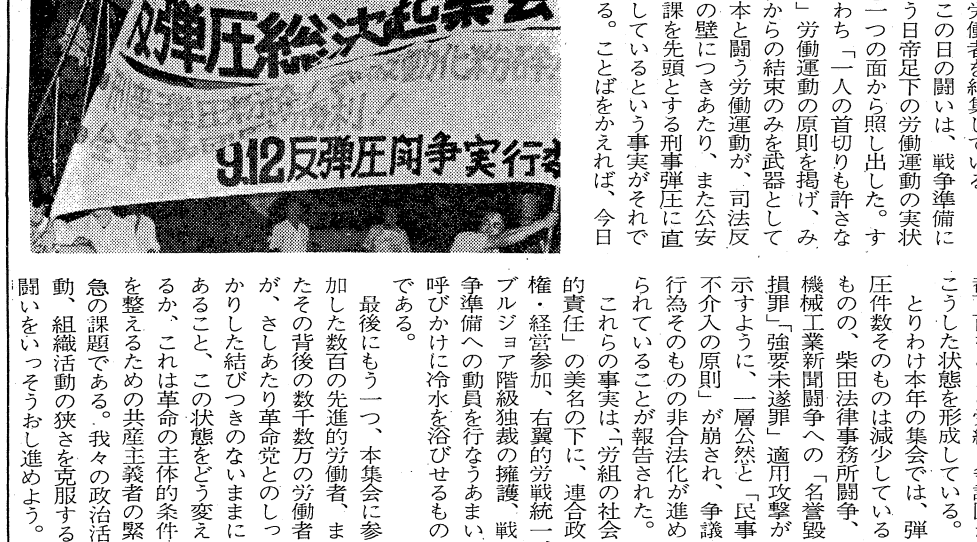
本集会は既に開始されている争議団の秋末闘争と結びつき、更にその爆発を促すものとしてあるとともに、それ以上に争闘連闘の歴史に画期をなすものとして克ち取られた。

まさしくそれは日帝の強盗戦争準備・政治反動の激化、労働戦線の右翼的統一という情勢に大きく規定されているとともに、これと対決する労働者の闘いを模索していかねばならない。争闘連闘の飛躍の課題として

集結は、勝利した光文社労組

の中で、そしてこれと利害を一つにする労働者階級の右翼的「労戦統一」の進行の中で、地域を起点に、青年労働者が「反戦・反安保、日韓民衆連帯」を高々と掲げ、闘いを前進させんとすることは極めて重要である。未だこうした闘いが、官公庁労働者を中心とした取り組みにわたっているとはいえず、かかる部分を牽引力として、民間労組、更に東部地区に膨大な存在する未組織の仲間の中に、こうした闘いをおし拡げていかねばならない。そしてこの青年労働者の息吹きをプロレタリア階級独裁・社会主義革命をめざす労働者階級の巨大な戦列を作りだす闘いとしっかりと結びつけていこう!

(東部通信員・M)



### 10/17 ひきつづき 全都争議団集会

#### 争議団共闘の四原則を確認

十月十七日午後六時から労働会館において、争議団共闘の飛躍をめざす「争議団共闘勝利総決起集会」が百二十団体三百名の労働者の結集によって開催された。

本集会は既に開始されている争議団の秋末闘争と結びつき、更にその爆発を促すものとしてあるとともに、それ以上に争闘連闘の歴史に画期をなすものとして克ち取られた。

まさしくそれは日帝の強盗戦争準備・政治反動の激化、労働戦線の右翼的統一という情勢に大きく規定されているとともに、これと対決する労働者の闘いを模索していかねばならない。争闘連闘の飛躍の課題として

集結は、勝利した光文社労組

この争議団とその支援に結集する先進的労働者の闘いの中で、右翼的「労戦統一」に対決し、階級的戦闘的労働運動の再生と強化を促し、資本主義・ブルジョア階級独裁を打倒す労働者階級の隊列と総反撃を準備し、抜いていかねばならない。

(労働者通信員・K)

10・16東部青年労働者の隊列

# 混迷と分散をうちやぶり 巨大な戦闘的学生の隊伍を

## 大衆的政治指導部の建設を 真剣に準備しよう

### 中央学生組織委員会

今日、ほぼ七〇年代末期にわたって停滞と混迷を強制されてきた学生戦線は、ゆるやかに前進し、しかし着実に力強く闘いを前進させている。横国大、筑波大、日大、東外大等々と相次ぐ決起が組織され、二里塚、日韓を闘う学生共同闘争が組織化されている。わけても今年五月以降、九州峰起に連動した学生戦線の組織的進出は、たとえそれが自然発生的で、明確としたものではないにせよ、明らかに分散・混迷の時代が終りをとうとうとしていることを示している。

## 学生運動の歴史的経験を総括し 学生戦線の革命的再構築へ

戦後階級闘争の中で、人民闘争の先鋒隊を担ったのは言うまでもなく学生戦線の闘争であった。六〇年代後半の闘争は、それ以降の一時の後退をはね返し、七〇年代前半に大衆化を遂げた。この大衆化は、学生運動の歴史的経験を総括し、学生戦線の革命的再構築への準備を急務とするものである。この大衆化は、学生運動の歴史的経験を総括し、学生戦線の革命的再構築への準備を急務とするものである。この大衆化は、学生運動の歴史的経験を総括し、学生戦線の革命的再構築への準備を急務とするものである。

## 急民派を反面教師とし 先進的学生のなかの政治指導部を建設せよ

### のなかの政治指導部を建設せよ

このエネルギーにかななる政治的発展を提起し、水戸をさし示すか、急民派の発展に、提点防衛のために。急民派を反面教師とし、先進的学生のなかの政治指導部を建設せよ。このエネルギーにかななる政治的発展を提起し、水戸をさし示すか、急民派の発展に、提点防衛のために。急民派を反面教師とし、先進的学生のなかの政治指導部を建設せよ。



80年4.20全国学生共同闘争に決起した学生達

今日、日本帝国主義の戦争準備が日々強化され、プロレタリア階級人民の反抗戦がそれに対抗しつつ発展する中で、再び百万の学生を擁抱する大衆化の潮流が起つてきた。この大衆化は、学生運動の歴史的経験を総括し、学生戦線の革命的再構築への準備を急務とするものである。この大衆化は、学生運動の歴史的経験を総括し、学生戦線の革命的再構築への準備を急務とするものである。

その機能を急速に喪失し始めるのであった。こうして、学生戦線自体も長期にわたる分裂と混迷を強いられた。これは、学生戦線の革命的再構築への準備を急務とするものである。この大衆化は、学生運動の歴史的経験を総括し、学生戦線の革命的再構築への準備を急務とするものである。

九月五日 「自衛隊募集業務反対県民総決起大会」がゴザンラウンドで二千人を集めて開かれる。九月一日、さとうきび政策確立、要求価格実現農民決起大会が那覇市与儀公園で二万人の生産者農民を集めて開かれる。同日、米海兵隊普天間(フテンマ)航空基地で、離着陸訓練中の偵察・観測・攻撃機ロフロンゴが滑走路に墜落。パイロット一名死亡。住宅密集地からわずか七百メートルの地点であり、一歩まちがえば大惨事になるであろう。十月二日、米軍、読谷村(ヨミタヤン)の強い抗議の中を読谷補助飛行場の夜間パラスチート降下訓練を強行。十月三日、米軍、主任施行通知書を停止。同日、米軍、空中早期警戒管制機E3Aを追加配備。B52一機嘉手納に飛来。

現場へとむかい、自らの闘いの検証を通して、批判をこぎすまじ、闘いの思想を豊かなものへと高めたいかなければならない。戦争と反動攻勢に対決する 革命的立場を固めよう。はじめに明らかにした如く、今日ゆるやかに着実に前進し、学生戦線の高揚は闘い取られつつある。今春五月以降の日韓連帯闘争の中に表現された学生戦線の政治的流動化は、苦闘の中で持続され、七〇年代後半からの闘いを基礎としつつも、同時に他方で日々強何される帝国主義戦争準備が公然と策動されるに及んで、それへの直感的危機感を民主的決起として表現しているといえる。

今号からシリーズ「80年代の安保」を連載します。今日の情勢下で、より鮮明にしなければならないのが現状です。戦闘的左翼諸派は、われわれもかかわらず、今日ほど労働者階級の単一党建設が問われている時代はありません。だからわれわれは、社共以上

### 全国の読者へ！ 連載をはじめめるにあたって

編集局

政策として、総合安全保障戦略の推進を行っています。この中心にあるのは、日米安保体制の再編・強化、環太平洋防衛圏設置、自衛隊の帝国主義軍隊化にあるといえます。

## シリーズ 80年代の安保

# 社会党の安保政策批判

第1回

われわれがこのシリーズを企画するにあたって、もっとも意図したのは、第一に、支配階級の戦争準備と政治反動の基礎たる日米安保体制の今日に焦点を絞り、支配階級の動向をより具体的に暴露していくこと。第二に、われわれは日本革命の対象と任務を日帝打倒・米帝追放・プロ独・社会主義革命の路



224日米安保反対闘争 社会党は「労働者階級をみちびいていくのか」

## 非同盟・中立路線を根拠づける帝国主義的城内平和主義

ブルジョア階級の帝国主義戦争の本格的準備と、プロレタリア階級の社会主義革命の真剣な準備をめぐる死活的な闘いが、全線にわたって広がっている。この時代にあつて、社会民主主義のいくつもの傾向の連合体である社会党は、今年一月の「社共合意」衆議院同時選挙中の飛鳥田「緊急民主主義政府大綱」のなかで、「安保」自衛隊を認めることを示しつつ、「安保」自衛隊を認めることを示しつつ、なんと「連合政権」の基礎をつくりだそうとしている。

## 憲法の「国民主権」に依拠し 社会主義革命を夢想する思想

第二次大戦後、わが国のブルジョア支配階級は、アメリカとの間で、日本国憲法をいかに定めるかを協議し、その指導のもとでこれを制定した。この最大の目的は「天皇制」「第九條」等々の相異点を「平和」と「民主主義」の名のもとに、ブルジョア共和制をとることにある。すなわち、ブルジョア階級の独裁的法的整備である。しかし社会党は、一方でその「綱領」において、ブルジョア階級独裁の軍事的装置について語りつつも、他方でこの制定を民主主義の主要な点に関する限り、すなわち「主権が国民に在り、国会が国権の最高機関として、権力をその手に集中することを可能に」しているとして、これを「平和革命の国内的条件を形成している」といっている。

## 帝国主義に買収された改良主義者の行きつく先はどこか

われわれは、社会民主主義者の空想的社会主義を、今日「空想」一般としてかたづけなくてはならない。戦後日本革命の敗北と、高度成長のなかでこの社会民主主義思想は、ブルジョア階級の手によって保護され、育成され、労働運動の労働者の経済的隷従を前提にした分配に歪曲し、そのことによつてブルジョア階級にたたえられ、その報償をえ、指導部の地位につ



77・9・27 米軍機墜落 米軍基地の存在は日本人民に限りない災厄をもたらしている

ついでに「(綱領) かつてレーニンが、マルクス主義の粉砕によって、マルクス主義の核心をブルジョア階級に売りわたした。ドイツ社会民主党の指導者カウツキーの「純粋民主主義」を批判して次のように語った。『現代国家の憲法をとってみたまえ。国家の統治方法をとってみたまえ。集会または出版の自由をとってみたまえ。法律のままで市民の平等』をとってみたまえ。あらゆる労働者にはよく知られておられるブルジョア民主主義の偽善をいいたるころで見いだすであろう。どんな民主主義国家でも『秩序が破壊される』という、すなわち、実際に被搾取階級が自分の奴隷的地位を破壊したり、非奴隷的にふるまうことを企てるばあいに、労働者に軍隊をさし向けたり、戒厳状態をしいたりする可能性をブルジョア階級に保障している道はない。あるいは保留条件が憲法のなかにはないような国はどこにもない。『労働者カウツキー』 このドイツ革命がどうなったかは、歴史の示す通りであり、レーニンの指摘の正しさはいままで

「性」日本の主権「反動化」という点からだけで批判している。ここには、日本の支配階級ブルジョア階級が、この体制によって資本主義体制を維持し、かつ帝国主義権益を拡張してきたことがスツポリぬけおちているのである。たしかに「道」(日本独占資本と国家の項で、この条約はわが国の安全のためでなく、日本独占ブルジョア階級がアメリカに依存して独占支配体制を維持し……)と指摘してはいる。だが、これだけであつてこれ以上ではない。実は、彼らの「憲法擁護と安保」の闘いこそ「重大な結節点」という観点こそ、このことに深く言及しえない根拠がある。共産主義者が、さも少数の武力一揆を考えているように描きだし、次のようにいう。『今日われわれはすでに基本的な諸産業に労働組合をもっている……このような社会的、組織的な力が存在し民主主義と文化が発達しているところでは、少数者の武力一揆は、勤労大衆自身によつて排除され、その成功の可能性を失

# 社会主義継続革命の理論と実践とは何か

すでにみてきたように「革命をつかみ、生産を促す」という基本観点が、「四人組」の時代との対比のなかで生産力の発展が第一におかれ、社会主義継続革命における階級闘争の観点が後景に退けられていることは否めない。これは文化大革命を批判的に評価するのではなく、その階級闘争の側面から否定面を強調することに

## 階級闘争を放棄した「改革派」理論の本質

原則的には最低のことが確認されなければならぬ。階級闘争がまだ終っていないことを認めると同時に、今は大規模な風のような、大衆的階級闘争がもはや必要でなく、またおこなうべきでもないことを認めなければならぬ。階級闘争が消失したという 観点と、階級闘争を拡大化する観点はどちらもわが国の現段階の客観的実態にそぐわないものであり、したがって全国人民の願望に背くものである。……この事業の達成のためにはプロレタリア独裁を堅持して、階級闘争を堅持しなければならぬ。だが、階級闘争はもはやわが国の主要な矛盾ではなくなっている。われわれのおこなう階級闘争は、社会主義的現代化の建設という中心の事業をめぐり、この事業に奉仕するものでなければならぬ。もちろん、社会主義的現代化建設の目的は究極的には「各人が能力に応じて働き、必要に応じて分配を受ける」という共産主義の偉大な理想を実現することにある。「一九九九年政府活動報告、華国録」かつての文化大革命のような激動ではなく、社会主義的現代化の時期における階級闘争の新たな把握も「階級闘争消失論」や「拡大論」と一線を画したところから四つの現代化の進展を推進しなければならぬ。しかしながら、他方で「社会主義現代化」のための理論のなかで「改革派」といわれている部分が生みだされている。

# 中国共産党はソ連を反面教師としうるか (下)

## 第五期全人代三回会議の位置——佐野雅之

社会主義経済の有利さを最大限に引き出すためには、その制度は特別の方法で運営されなければならない。(3)その方法とは「社会主義的客観的経済法則である」と宣言され、もし成果ある発展をしようとするならば、この方法に従わなければならないとして、この客観的経済法則を三つの側面から次のようにしている。

つまり①国民経済の計画性のあるつりあいのとれた発展の法則 ②価値法則 ③国家、生産単位および個人の利益の一致の法則をあげている。このなかで②の価値法則については、たとえば「価値法則の正しい応用(北京周報七九年)」をはじめとして数多くの議論が進められている。もちろん提起されている「社会主義的利潤論」などもこの範ちゅうに基本的には入るものである。

九四九年建国からの三〇年間は「資本主義と共産主義とのあいだに一定の過渡期がある」とは理論上疑いをいれない。この過渡期は、この両社会制度の特徴または特性を一つに結びつけたものとならざるを得ない。この過渡期は、死にかかった資本主義と生れつつある共産主義との闘争、いかえれば、打ち破られたが絶滅されていない資本主義と、生まれつつある共産主義との闘争である。この闘争の時期に他ならない「プロレタリアの独裁の時期における政治と経済」という時期である。ここに社会主義継続革命の二つの道の階級闘争が存在する現実的な根拠がある。そうであるが故に文化大革命が当初めざしたものとその過程を正しく教訓化することがなければ、全人代所へ近づき、または成しきれたときにおいても、商品、価値および価値法則が「人間の意志では変えられない経済法則」として存在するかのような誤ま

## 重工業偏重がうみだした歴史的教訓をくみつくす必要性

今日の「現代化」の経済理論の中核をなすのは「経済的法則にたつてして事を運び、四つの現代化を早めよう(一九七八年)」であり、その中で「社会主義的客観的経済法則」が強調されている。

この生産力の発展の目標が鄧小平発言のように「一人当りのGNPが一千ドルになるような現代化された、高度の民主と文明を持つ社会主義強国をめざす(一九八〇年)」というような資本主義社会との対比のなかでしか「生産力の発展」を示しえないという限界を示さざるを得ない。やはりこれは「四人組」が一面のみを強調したように、彼らもその反響定として他の一面を強調しているにすぎない。「革命をつかみ、生産を促す」観点の保持をなくして「生産力の発展」のみが生産力の発展を可能とする最も早いものであったが、またさまざま

に「現代化」が当面の一時期のものであるべきである。それが短期的な目標であるというよりはむしろ長期的かつ普遍的なもの(客観的経済法則)へと「高めあげ」ることによって「必要に応じた分配」への道筋が示されずに固定化されることは誤りである。この労働に際しては、現在の中国においては六級賃金制をはじめとして厳として存在しており、この格差を縮めていく努力が、肉体労働と精神労働の差をなくしていくことと結びつけて社会主義継続革命の実践として行なわれていった。しかし、胡喬木の主張の根拠が文革期の経済建設の失敗の起因であった四人組の「空論」性からの脱却にあるとしても、「労働に際した分配」を普遍的なものとしていくことでは社会主義の理念を実現していくことはできない。

毛沢東思想の発展の道は何にか——二つの道の路線闘争

われわれはすでに(上)において「四つの現代化」の政治的、経済的根拠を示し、今日の中国の困難を突破するためには九億六千万の人民の生活を豊かものとしていくためには、生産力の発展は必要不可欠であり、特に「四人組」の路線がこの観点を意識的に捨て去っていたのでその反響定として強調されている。

これが社会主義建設全体のなかで、つまり生産、分配、消費の全過程で、どのように生かされていくかを示しえなければならぬ。

この胡喬木を代表とした「改革派」の理論を概括すれば、この間の中国社会主義建設を概括し、理論化する根本が生産力の発展の遅れをいかにともすかというところに集約されている。たしかに、九億六千万の人民の生活を豊かものとしていくためには、生産力の発展は必要不可欠であり、特に「四人組」の路線がこの観点を意識的に捨て去っていたのでその反響定として強調されている。

これが社会主義建設全体のなかで、つまり生産、分配、消費の全過程で、どのように生かされていくかを示しえなければならぬ。

な困難を生起させるものであった。毛沢東はかつてこの困難の突破を、重工業と軽工業、農業との関係で生活資料とくに食料の生産を重視して労働者の生活を安定させることによって解決せんとしてきた。それは「ソ連で食料の生産高が長期にわたって革命前の最高水準に達することができなかった問題、一部の東欧の国で軽工業、重工業の発展がきわめてアンバランスなために生じた深刻な問題などは、われわれのところに存在しない。われわれは一面的に重工業を重視し、農業、軽工業を軽視したために市場には物資が不足し、通貨は不安定である。われわれは農業と軽工業を比較的重視してきた(十大関係について、一九五六年)でも明らかのように、中国の社会主義建設の実践が示している。それ故、この「十大関係論」は十一全大会において「四つの現代化」が提起されたときに再確認された根拠があった。

現在このことが中心におだされず、むしろ今日では重工業を重視していることとによって生みだされている矛盾のほうに深刻化している。この重工業重視の政策に関しては、歴史的教訓がある。かつてのソ連で一九五三年のスターリンの死後にマレンコフは約三〇年間にわたる重工業重視による、軽工業と農業のた遅れ、国民の消費生活が低水準にたつていくことを指摘して、軽工業と農業を重視して不均衡を是正するための政策転換を図ったが、指摘の正しさはありつつも部分的手直しにとどまった。いやむしろ重工業重視政策のなかで生みだされた多数の修正主義者どもに打ち倒され、一九五五年フルシチョフによってふたたび重工業優先が「社会主義拡大再生産の必然的な条件」であると強調し、かつての「改革」が「右翼的偏向」として否定された。しかしその「社会主義拡大再生産」は農業破壊を生みだし、フルシチョフが「失敗」で失脚したのである。

ソ連の重工業偏重の政策が長期にわたつていたため変更不可能となり、ついには資本主義の全面的復活をより促進させ、国家独占資本主義へと発展したことを見落してはならない。それ故中国においてこの問題に対し、注意深くすすめてもすぎることはない。しかしながら「四人組」の否定面の強調の帰結が、生産力の発展へと一面化されると、中国の経験が投げ捨てられ、新しい方法をつかみださんとしていくことが、かつての歴史の再版になることは皮肉である。

# 単一のマルクス・レーニン主義党創建のための論戦

## 戦旗・共産同が「人民史観」に

### こめた第二次ブンド克服の限界性

(中) その一

今回は、(4)の①のつづき、(4)の②(1)までを扱うこととする。

②(1)は、戦旗・共産同の「人民史観」では、結局日帝の米帝と結託した帝国主義戦争を朝鮮侵略反

## 戦旗・共産同のソ・日帝国主義

戦旗・共産同は、「ソ連社会帝国主義の南進脅威を宣伝し、領土的野望をいうのは、まさにそこから自主防衛力強化、北方領土返還運動をつうじて国民的コンセンサスの取りつけをはかる帝国主義ブルジョアもの立場へのおちこみであつて、何のマルクス主義的意向性を持つ問題把握ともいえない」(「戦旗」四二二号)といひ、ソ連社帝と日帝の覇権争奪を否定するのである。戦旗・共産同は、日帝は火のない所で煙をたて、反ソ民族排外主義を煽つていっているといふのである。ソ連社帝に対する脅威論は、日帝が南進、特に朝鮮侵略反革命戦争を準備し組織し貫徹するためのデマだといふのだ。

## ソ社帝の美化に陥る戦旗派の「労働者国家」論の矛盾と動揺

戦旗・共産同は、ソ連をどう見ているのか。現在のソ連は、本質的には「労働者国家」と見ている。それは「労働者国家」論をめぐって、中核派のソ連「スターリニスト官僚派」論をめぐって論戦が展開されている。その上で一方では「ソ連邦を『第二範ちゅう論と批判』している。『社会帝国主義』と批判することは正しい。『人民の戦旗をかかげて』といひ、他方では『社会帝国主義』を文字どおりの帝国主義として、なほブルジョア国家のものとして論理化しようとし、『反帝・反社帝』などと戦略化させていることは正しいといひ、美化している。

## ソ連軍事侵攻の経済的根拠を

美化の第一は、ソ連を「労働者国家」と見ていることである。戦旗・共産同は、ソ連は「労働者国家」つまりプロレタリア階級独裁を支持するものでなく、ブルジョア社会とはいえないといふ。このことから、基本的に社会

中東とアジア、特に南朝鮮を支配する勢力圏、覇権を日本が米帝と結託し従属的に同盟して、これを保持し防衛しようとしているのに対し、ソ連社帝が攻撃し、これを再分割し奪取しようとしているからだと暴露する。そして、ソ連の労働者階級・人民に革命的祖國敗北主義の立場で、自国ソ連社帝の敗北を求め、それを好機として自国帝国主義打倒の社会主義革命をめざすことを呼びかける。

## 半革命的祖國敗北主義の態度

こうしてこそ日本の労働者階級をプロレタリア国際主義の立場に

戦旗・共産同によれば、ソ連は「労働者国家」が他国、他民族を抑圧・侵略・支配しているということになる。ソ連は「労働者国家」論には、マルクス・レーニン主義のガイストたるプロレタリア階級から見て無理がある。

## ソ連のブルジョア独裁への変質

では現在のソ連をどう見るべきか。本質的にはブルジョア階級独裁のブルジョア国家、資本主義と規定すべきなのである。ソ連は、現代修正主義が党を支配し、「階級闘争の消滅」「全人民の国家」を主張し、プロレタリア階級独裁を放棄し、党に指導された国家を官僚が支配し、人民から遊離し、人民を抑圧する国家へ変質し、ブルジョア階級独裁へ変質・転化した。



6.22反戦反安保闘争

よる所有へと変化している。それ故、官僚ブルジョア階級による国家資本主義は資本主義の全面的復活をうながしてきた。

段階的には、国家資本主義から国家独占資本主義へと発展し、帝国主義段階に入っている。

現在のソ連は「社会主義大家族論」「民族解放闘争支持」を掲げ、実際では東欧を一層従属国化し、社会主義国への干渉を強め、民族解放闘争を抑圧・隸属・変質させ、米帝国主義とつてかわつて新たな世界体制を確立しようとして登場し、両者の間で覇権争奪戦、第三次世界再分割戦が始まり、激化している。(「綱領草案」とい

## 朝鮮人民連帯を「血債・猛省」にのみとどめてはならない

戦旗・共産同は、南朝鮮人民との連帯をくり返して訴えている。そして真の連帯の道は、自国帝国主義日帝を打倒する以外にないと主張している。

これは正しい。我々も日帝打倒米帝追放・プロレタリア社会主義革命、ついでに、植民地主義、強盗戦争を打ち破ることが、南朝鮮人民、総じて朝鮮人民に真に連帯する道であると考えよう。

第一は統一革命党に対する態度である。光州蜂起の敗北の原因として前衛党の不在をあげ、前衛党の建設を「烽火」・「金日成主義のりこえ」民族解放・革命戦争を真に指導する前衛党形成(中核派)をブンド系が多く、中核派、第四インターが主張している。これは南朝鮮人民の中で、カイライ政権の弾圧に抗し、ねばり強く前衛党の建設を推し進めている統一革命党とその闘いの否定である。

第二は、自主的平和統一の評価である。これが重要である。金日成主席が提唱する「自主的平和統一論」は、一九五四年のジュネーブ会議での提起以降、基本的な変化はない。それは統一三原則としてまとめられている。第一、外国勢力の干渉に反対し、民族自決の原則をふまえて、自主的に統一問題を解決すること。第二に、相手方国にたいして武力行使をおこなわず平和的に統一を実現すること。第三は、思想と理念の団結をはかること、第三点である。これは七二年の七・四南北共同声明の第一条の中に刻みこまれて

「一国での社会主義が不可能であるというまちがった解釈」を生み出す恐れがあることをあげている。そしてそのすぐ後で「経済的および政治的發展の不均等性は、資本主義の無条件的な法則である。このことから、社会主義の勝利は、はじめは少数の資本主義国でも可能であるという結論が出てくる」といひ、この「社会主義の勝利」とは、プロレタリア階級独裁の樹立だけでなく、この国の勝利したプロレタリアートは資本家を収奪し、自国に社会主義を組織する。つまり社会主義経済の実現も含んだ一線をひききれていない。特

「南北独裁政権の打倒」を主張し自主的平和統一を否定するだけでなく、朝鮮民主主義人民共和国の打倒を主張している。これらは、口先では「血債・猛省」「朝鮮人民の苦闘に答へ」といひつつ、民族の将来はその民族自身によって決めるべきではないという原則をふみにじり、自分達が朝鮮人民になりかわり代行し、自分勝手な主張をおしつけようとするものなのである。ブンド系の中には、中核派、第四インターにひきずられつつ、自主的平和統一が、南朝鮮での暴力革命を否定している。誤りだとして、南朝鮮が思いあがった自分達の「綱領」や党建設を朝鮮人民におしつけようとするべきではない。現実から出発すべきである。我々は統一革命党を断固支持し、一層の発展を望む。

自主的平和統一に反対しているのは、米・日本の帝国主義者とそのカイライどもであり、朝鮮人民は、圧倒的にこれら支持しているところだ。ブンド系も多く、中核派、第四インターは自主的平和統一に反対している。

第四インターは、光州蜂起の教訓として臨時革命政権の樹立の必要をのべて、その政綱を提起する中で、「南北協同」なる七・四南北共同声明の政治的前進地平を完全清算せよと主張している。中核派は

※ ※ ※ (次号につづく)